

令和4年度(2022年度)第4回みなみ野中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日 時	令和4年(2022年度)10月22日(土) 9:30~12:00
場 所	みなみ野小学校2階 家庭科室
出席者	参加者:荒井、大淵、大山、川崎、佐藤、野牧、平野、山城 川口中学校区地域づくり推進会議:中村 はちまるサポート由井:田辺 高齢者あんしん相談センター片倉:相馬 第一層生活支援コーディネーター:今泉 八王子地域 PAL-ETTE:打越 未来デザイン室:今川、野田、安齋、橋本 資産管理課:高田 エックス都市研究所:田中、橋爪、高橋
見学者	東京工科大学学務部学務課大学院係:加藤 みなみ野中学校保護者:田谷
配布資料	第4回みなみ野中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 取組意見ダイジェスト(みなみ野中学校区) 資料2 八王子市の公共施設マネジメント 資料3 「子育てしやすいまちづくり」インタビュー調査の結果 資料4 モデル地区参加者との意見交換会 資料5 川口中学校区地域づくり推進計画抜粋 資料6 アクションプラン出来上がりイメージ例 アクションプランアイデアワークシート

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 情報提供「地域づくり推進計画の共通テーマについて(市からの情報提供)」

会議資料をもとに、公共施設の活用・再編について事務局から説明を行った。説明及び質疑の内容は、以下の通り。

<説明・質疑内容>

(説明内容)

- ・全国各地で公共施設の老朽化による事故が起きている。公共施設は特定の時期(昭和49~58年)に集中して整備されており、今後老朽化への対応が必要である。一方で、市内の人口減少、高齢化の進行によって市の税収は減少する見込みである。これまでの水準で公共施設を維持するためには2046年度までに3,755億円が必要となる。また、平成25年度(2013年度)の1年間の施設維持費であった約93億円を基準としても、今後30年間で965億円が不足すると見込まれる。公共施設の維持、更新にかけられる市の財源には限りがあるため、公共施設による事故が発生しないよう、市は的確な予算対応をする必要がある。
- ・本市では、平成27年(2015年)に公共施設マネジメント基本方針を策定しており、市民と協働

することで将来にわたって住みよいまちづくりを実現することを基本理念としている。この方針を推進するために、公共施設マネジメント推進計画を策定しており、3つの目標を掲げている。1つ目は、人口に合わせた施設の適正配置。2つ目は、市民1人当たり2.03m²の維持。3つ目は人口に合わせた施設総量の適正化である。特に3つ目は、公共施設を新たに作らずとも、人口減少により、市民1人当たり換算した施設の延床面積は増え、維持管理コストも増大することから、今後は施設総量を減らしていく必要があると考えている。

- ・公共施設マネジメント推進計画の目標を達成するための具体的な手法の1つ目としては、施設の長寿命化がある。市の施設の大半は鉄筋コンクリート造であるが、耐用年数が定められている。しかし、計画的な予防保全により耐用年数を延長することが出来、これによって新築や改築などの新しい建設コストを縮減しつつ、建設工事に伴うCO₂発生の抑制につなげていく。
- ・具体的な手法の2つ目として、施設の複合化がある。市内の学校で児童生徒数が減少し、空き教室が生じている。その教室を学童保育やその他の目的で有効活用し、周辺施設との複合化・集約化をすることで、施設総量の縮減を図っていく。
- ・具体的な手法の3つ目として、民間への委譲・民間施設の利用がある。公共施設を市で保有するだけではなく、民間や他の自治体と連携して、サービスを提供していく考え方を取り入れていく。
- ・公共施設マネジメントの取組に関する動画を市の公式 YouTube チャンネルで発信しているので、ぜひご覧いただきたい。

(質疑内容)

- ・公共施設に含まれるインフラの範囲を確認したい。道路、公共の駐車場、河川堤防などは公共施設に含まれているのか。

資産管理課で担当している公共施設には、道路等のインフラは含まないが、それらも公共施設である。インフラについても、各担当部署が個別施設計画を作成し、それに基づいて維持管理を進めている。計画の基本的な考え方は、公共施設マネジメント推進計画と同様である。(資産管理課)

- ・公共施設の耐用年数は、建設した当初から決まっているものなのか。

耐用年数は、建物の資産価値が消滅するまでの期間を示している。コンクリートの寿命は手入れを行うことで100年以上耐用できるという話もあるが、基本的には25年を節目にして大規模修繕を行うことで、最終的に75年まで耐用させるという考え方で行っている。(資産管理課)

- ・公共施設の耐震について、対応状況はどのようになっているのか。

現在ある小・中学校の耐震補強はすでに完了している。また、緊急時に避難所となる重要度の高い施設についても、補強は完了している。老朽化診断や耐力度診断の調査を踏まえて、老朽化の度合いが激しい場合には改築も行う。(資産管理課)

3 自主活動報告

会議資料をもとに、荒井氏から自主活動の結果報告を行った。説明及び質疑の内容は、以下の通り。

<説明・質疑等の内容>

(説明内容)

- ・自主活動の前提として、本推進会議がどういう役割を果たすのかを考えた。国や都、市全体で一

- 体感を持ってまちのプランを策定するということが難しい状況にある。地方で成功しているまちは、ローカルな営みを大事にしており、地域住民が自らリーダーシップをとって、行政と同じ方向を向いてまちづくりに取り組んでいる。本市では 2040 年に向けたまちのプランニングをしており、地域住民がリーダーシップをとってまちづくりに取り組むことが重要だと思う。そのためには、まず地域住民が当事者意識を持つこと、2つ目に利他的に活動をすること、3つ目に行政と住民で共創及び協働することが必要である。今回は、地域住民が当事者意識を持ちやすく、様々な人が一体となって検討できる「子育てしやすいまちづくり」をテーマに設定し、調査を行った。
- ・令和4年(2022年)10月7日に地域子ども家庭支援センターみなみ野内にある親子ふれあい広場みなみ野(以下「親子ふれあい広場」という。)にて、乳幼児を育てている保護者7名に対し、インタビューを実施した。
 - ・みなみ野のイメージとしては、生活に必要な機能が揃っている、歩道が広い、まちが静観であることなどが挙げられた。
 - ・みなみ野はニュータウンであり、結婚や子育てを機に転入する人が多い。子ども家庭支援センターを知るきっかけとして、市の乳児訪問のスタッフから施設の話聞いて訪れるようになったという意見があった。
 - ・親子ふれあい広場を利用し続ける理由には、常に子どもと親だけで過ごすのがめいってしまうことなどが挙げられた。特に共稼ぎ世代で育休を取り、収入が少ない時期におけるサポートが必要であると思った。
 - ・親子ふれあい広場への要望としては、乳児・幼児のスペース分離が挙げられた。もともとはスペースが分離されていたが、近年統合された。乳児と幼児で行動パターンが異なることから、歩き回る乳児を連れた親は施設に来やすいが、抱きかかえる必要がある乳児を連れた親は来訪しにくくなっている。
 - ・みなみ野に住んでいて困っていることとして、「異年齢の子どもが遊べる公園が欲しい」という要望が挙げられた。公園の利用方法は、歩き出す前の子ども、歩き始めた子ども、活発に動き回る子どもなど年齢層によって大きく異なる。異年齢の子どもが一か所で遊べる公園があるとよい。
 - ・親子ふれあい広場のスタッフにもインタビューを実施した。元々この施設の利用者で、子育てが落ち着いたために働き始めたというスタッフがあり、自身の経験を基にしたアドバイスをすることができているという。
 - ・アクションプランに反映したいこととして、1つ目は「子育て世代にやさしいサード・プレイスの創出」である。ここでいうサード・プレイスとは、家庭でも職場でもない居場所のことを指している。具体的には、既存公園を改良して異年齢の子どもを連れていける場にすることや、親子ふれあい広場の乳児室と幼児室を分離することが挙げられ、同じ立場の人が集まりやすい場所を作ることが考えられる。また、親子ふれあい広場を広域で活用できるようにし、駐車場を増やすなどサービスを拡充すれば、受けられるサービスを充実しつつ、子ども一人当たりの維持費も減らせる。加えて、親子ふれあい広場の元利用者がスタッフをしていることから、「先輩ママと語るデー」などのイベントを開催しても良いと思う。
 - ・2つ目は「サード・プレイスに向かう散歩道の機能を再定義」である。みなみ野の各所にベンチを配置して、時々休みながら自分のペースで歩けるまちづくりができると良いのではないかと考えた。

(質疑内容)

- ・由井市民センターみなみ野分館にも「プレイルーム(赤ちゃんふらっと)」がある。できてから日が浅く、利用者は少ないものの、母子は常に滞在している。

色々な子育て支援施設があることを知り、施設を使用したい人の選択肢を増やすことが重要である。

- ・今回のインタビューでは、乳児・幼児を持つ親にフォーカスを当てたが、子育ては子どもが18歳程度になるまで続くものであるため、将来的には対象とする子どもの年齢を上げた取組が必要になると思う。

4 先行事例ヒアリング

会議資料をもとに、中村氏から川口中学校区地域づくり推進会議の活動実態が説明された。また、進行役は野牧氏が務めた。説明及び質疑の内容は、以下の通り。

< 説明・質疑内容 >

(説明内容)

- ・川口中学校区は地域づくりのモデル地区として先行的な取組を進めている。地域の将来ビジョンは「住みたくなる、住み続けられるまち川口～自然と共生し、大人から子どもまでのつながりを大切に～」である。子どもたちは成長すると地域から出ていくが、大人になっていつかは戻って来てほしい、という思いを込めている。
- ・優先的アクションプランは、「プラットフォームづくり」としている。地域のつながりをつくるため、具体的にコミュニティカレンダーづくりとマルシェの開催に取り組んでいる。
- ・地域づくり推進会議の設置前にも、市主導で設置された市民から行政に対して意見を出す会議体が多くあったが、市政への意見反映が目に見えなかった。そのため、新たに推進会議を作ること批判的な声があった。
- ・推進会議の開始時点で地域の中に様々な団体があったが、それぞれの活動等を知る機会がなかった。そこで、推進会議ではまずは互いの団体情報を知るところを目指している。
- ・町会の加入率が50%以下で子育て世帯が少ないため、2040年に向けて未来に生きる世代の声を反映させるための方法を検討することが、推進会議の課題の一つである。
- ・運営経費の確保も課題の一つである。アクションプランを実現するに当たり、コミュニティカレンダーの紙は市に用意してもらい、印刷は町会にお願いをしているが、マルシェのポスターデザインについては知り合いにデザイン料無しでお願いをしている状況である。
- ・推進会議への子育て世帯の参加にあたっては、会議中に子どもを預かってもらえる場が欲しいという声があり、中学校のボランティア部で預かるという方法を検討している。
- ・コミュニティカレンダーを作ったことで、どの団体で何の活動をしているかが明確になった。今後、似たような活動をする複数の団体が共同で活動することを検討している。
- ・令和4年(2022年)から推進会議の議題等を話し合う運営担当会を立ち上げた。初めは、マルシェ部会とコミュニティカレンダー部会からそれぞれ2名が参加し、行政と話し合う形式を検討したが、地域課題を包括的に扱うために、町会や自治会、学校関係などの幅広い分野の参加者をそろえた。
- ・運営担当会における議事録の作成、資料準備、日程調整など、現在行政が行っている業務を全て運営委員の参加者で行うことが出来るかは懸念点である。

- ・川口中学校区では、現在ある学校を集約して義務教育学校を建てる予定がある。義務教育学校では、学校機能だけでなく、保育園や学童、病院、高齢者が集える場所、図書館などを含め、多世代の人々が集える施設としたいと考えている。そのため、団体連携の枠にとどまらず、みんなが集まって意見を話し合える場を作っていくことが重要である。まずは、団体同士のメンバーや活動内容を知ることがを目的に活動している。
- ・マルシェの活動では、初めに助成金を申請して実施をしようとしたが、実現しなかった。住民協議会会長にマルシェを実施したい旨を相談したところ、住民協議会が主体のお祭り(市民センター祭り)とマルシェを共同で行うことを提案され、実現することとなった。住民協議会の運営者の年齢層が60歳代と高く、新たな企画を生み出すのは難しいと思っていたところに、マルシェの企画を持ち込んだため、推進会議と住民協議会でwin-winの関係となって実施することが出来た。
- ・マルシェは、地元農家の出店やSNSで有名なデザイナーも参画するなど、幅広い人材がスポット的に活躍できる場として機能するのではと考えている。また、各関係機関と交渉する際は町会長と協働することで話がスムーズに進むことが多かった。
- ・コミュニティカレンダーは、現在推進会議参加者の1人が中心となって作成している。負担を減らすため、ネット上で直接情報をまとめる方法を検討している。またカレンダーのデザインも募集をしたいと思っている。
- ・様々な世代の意見を反映して地域の未来を検討するため、まずは人々が会って話し合う機会を作り、参加者のそれぞれの才能がスポット的にでも活かすことが出来れば、川口中学校区がより活性化するのではないかと思う。

(質疑内容)

- ・義務教育学校は新たに建設するのか。
義務教育学校の設置は、当初市から市民に対して説明がなかった。現在の中学校は雨漏りなどがあり、これをそのまま義務教育学校として使用することは難しいのではないかと市民は思っていた。耐震強度の調査で、継続利用が難しいという判定がされなければ、建替えることができないうことである。一応、建て替えるという話も出ているが、災害ハザードの区域に入っていることもあり、現実的にどこに設置するかという話ははっきりしていない。(中村氏)
- ・みなみ野中学校区では、乳児や幼児が集まる場所など様々な施設が点在しているため、1か所に集約すると多世代で交流ができると思うが、川口中学校区ではどのような取組が行われているのか。
川口中学校区では、近隣に職場がある住民もいれば、遠くまで働きに行く住民もいる。子どもが発熱等したときに、急に迎えに行くことが難しいという声があり、病児保育室での看病やお迎えを高齢者が行うことなどに賛同する住民もいるため、そうしたサービスが1つの施設にまとまるとよいと考えている。(中村氏)
- ・推進会議参加者の男女の比率が同じでないといけないのではないかと。今後子育てのことなどを考える際に、実際に子育てを行ったことがある人が直接意見を言えるようにしたほうが良い。そのため、多様な人がコミュニケーションをとれる場が必要である。川口中学校区地域づくり推進会議の男女比はどのような状況か。
半々ぐらいであり、PTAの方々が多く参加している。(中村氏)
マルシェ活動などの実働部隊では女性が多いのか。

若手の女性を中心にしている。(中村氏)

男女比率がそろっていると、意見などが落ち着くところに落ち着くと思う。また、若手の人に参加してもらうためには、どういうことをすべきか。

川口の推進会議には中学校の校長も参加しており、推進会議での活動を中学校の生徒等にフィードバックすることを考えてくれている。ちなみに、推進会議の名は地域に浸透しておらず、推進会議参加者として地域団体に相談しに行くと、受け入れてもらえないことがあり、他の役職を名乗って話をすることも多い。(中村氏)

- ・これまでばらばらに活動していた団体がつながることが重要であるとわかった。地域づくりの前提として、団体を横断した組織作りや活動が必要であると思う。
- ・川口原産の宗兵衛裸麦など、地元固有のものを掘り起こし、人と人がつながっていくことがよいと思った。

川口エンドウと高倉ダイコンはみなみ野の小学校で育てている。このことで八王子野菜に興味を持つことにつながり、できるだけ八王子野菜を選ぶことにつながった。

地域固有の産品に興味を持つ子どもも出てくると思う。そうした産品を育てている方に農業体験に協力してもらうことで地域の関わりが広がることもよいと思う。(中村氏)

- ・みなみ野を周回する散歩マップを作成したい旨を小学校の保護者に伝えたところ、賛同者が複数いたため、活動し始めている。川口中学校区でも散歩コースのようなものはあるのか。ある場合は、見学やヒアリングをすることについてどのように思うか。

よいと思う。地域には様々な散歩コースがある。地元で長く住んでいらっしゃる方がよく知っているので、相談してみると良いのでは。(中村氏)

サード・プレイスになるような散歩道を作りたい。それぞれの年齢層に適した散歩道をマップ化したいと思っている。今後相談させてもらう。

5 議題「アクションプランを考えよう」

(1) グループワークの係決め

会議資料をもとに、前回のみなみ野中学校区地域づくり推進会議での取組の振り返り、今回の話し合いの進め方について確認し、今回の進行役(ファシリテーター)及び板書係をそれぞれ一名ずつ選出した。

進行役：荒井氏

板書係：野牧氏

(2) アクションプランの検討

会議資料をもとに、今回の検討内容について確認し、アクションプランのアイデア出しを行った。なお、前回と同様に1グループで検討を行った。主な意見は、以下のとおり。

<主な意見>

1) コミュニティについて

- ・市民、行政、企業、団体の一体感が必要である。自然の保全や保護についても、行政や各団体がバラバラに活動しているところを地域住民と共に維持管理できるとよい。地域住民だからこそ知っている地域内の危険な場所や修繕すべき場所があると思うので、そうした意見やアイデア聞ける窓口があるとよい。

- ・公園、学校、市民センターなど今地域にあるものを用いて、一人一人が繋がれる居場所があるとよい。
- ・地域で開催しているイベントを無くさずに、継続・発展させていけるとよい。例えば、駅前のイルミネーションや地域清掃、市民センター祭り、地域パトロール、防災訓練など、小中学校や地域が共同で行えるとよい。そのためには、今ある町会や団体の連携が必要である。
- ・みなみ野にある組織やグループ、その代表者や連絡先などが一目で分かるような表があれば、市外から転入した人にもわかりやすいのではないか。
- ・地域の人々をつないでいくためのまちづくりデザイナーを育成する必要があると思う。
まち全体を客観的にみることができ、どういう風にまちをデザインするとよいのかを考える人材がいたほうがよい。

2) 福祉について

- ・生まれてから死ぬまでみなみ野で完結できるように、出産から葬儀まで行える施設があるとよい。

3) 子育て・子育て・教育・スポーツについて

- ・みなみ野の散歩道を今後作っていききたい。
- ・令和5年(2023年)から部活動の指導者を地域の団体に移行するという方針が出ているが、本市の教育委員会でどういった対応をとるのが決まっていないと聞いている。今後部活動の指導者を地域に移行するにあたり、どういった対応をとるのか。例えば、東京工科大学専門学校にはスポーツ健康科があるため、地域と連携することや、人材バンクを作って地域の人材を活用することなどが挙げられる。
部活動指導者に関する地域人材の活用は、第3次教育振興基本計画の中で挙げられている。年次単位の予算をどのようにつけていくかが課題である。また、民間事業者に移行した際の子どもの安全性等の責任問題をどうクリアするかが大事になると思う。
- ・一部の地区において、小学生の通学見守り隊をみなみ野エグザガーデンひまわり会(シルバー世代)から、保護者に移行した。他の地区でも通学見守り隊を結成できるとよい。
- ・市内を散歩する人は、健康のために行っていることが多いと思う。散歩道の様々なコースを作り、地図に起こしてあるとよい。

4) 場所について

- ・公共施設マネジメント推進計画の中に、人口に合わせた施設の適正配置があったが、例えば由井事務所はかなり老朽化しており、車でも行きづらい場所にある。子育て世帯が多く住んでいるみなみ野への移転を検討してほしい。
- ・人々が集まることを目的としたときに、新しい施設を建てるといった実現可能性が不明なことを考えるのではなく、今実現できることをすべきである。例えば、子どもたちを中心とした里山の自然観察を行える散策コースを作ることや、広場を活かしてミニコンサートなどの音楽会やマルシェを開催することなどがある。また、みなみ野の散策コースを作り、俳句、スケッチ、写真を撮ることや、自然観察の専門家を入れたイベントなど、様々な目的を持つ人が一つのコースに集まるとよいかもしれない。みなみ野には特定の分野の専門家が多く住んでおり、

そうした人たちを発掘していくことが大事であるし、それが市民の交流にもつながると思う。これらを実現するためには、取組を行う場所が必要である。場所の提供を行政に頼るだけでなく、東京工科大学等の学校施設を借りることが出来るとよい。

みなみ野駅では、一部のスペースでみなみ野自然塾の活動を紹介するコーナーが設けられたことがあった。駅やショッピングモールの中に市民活動の発表の場があるとよい。

日野自動車株式会社の研修所にも小ホールがあり、自然塾で利用したことがある。

- ・資料6のアクションプランの出来上がりイメージ例には、「大学」というワードが入っていない。市内には21大学あり、特にみなみ野周辺には日本文化大学、山野短期大学及び東京工科大学がある。これらの大学が地域と連携することが重要であると思う。特に、大学内の図書館や文化ホールなどの施設を開放し、ハード面で地域に協力できたらよい。大学施設の開放は、各大学の持ち回りで行ってもよいかもしれない。

5) 産業について

- ・散歩道を活用し、スタンプラリーをするのはどうか。大学等に来訪したらスタンプを押し、終点をスーパー三和やホームックにして、そこで買い物をすると少し値段が安くなるというアイデアである。また、地区内で駐車場を増やすことは簡単ではないので、スーパー三和やホームックと協力し、各店舗の商品を買うことで駐車場を使えるようにすることなども有効だと思う。
- ・推進会議などの地域活動を住民に周知することが難しいという現状がある。ローカル紙に情報を載せても見ない人が多いと思うので、YouTubeを用いてはどうか。東京工科大学にはTVスタジオがあるため、学生に動画作成に協力してもらい、単位取得を可能にするとよいのではないかと。
- ・東京工科大学と連携し、スクールバス内に地域活動に関するポスターを張り、周知してもよいのでは。

みなみ野の特徴をデザインしたバス(みなみ野バス)を走らせると面白いかもしれない。

- ・みなみ野の特徴として、商店街がないことが挙げられる。
地区内にある株式会社明治やコマツカスタマーサポート株式会社などの企業と連携して、子どもの夏休みの自由研究に使えるイベントを開催するとよいのではないかと。
- ・東京工科大学では学生が市内で就職しないことに課題意識を持っている。大学の寮生と自治会が共同で防災訓練をしてもよいと思う。

6 議題「次回の検討にむけて」

会議資料をもとに、第5回会議の進め方、及び自主活動の内容について確認した。検討結果は、以下のとおり。

< 検討結果 >

1) 事前ワークについて

- ・今回出たアクションプランのアイデアをまとめた A3 模造紙の写真を事務局から参加者に共有する。その写真を基に、各自でアイデアを具体化してくる。

2) 自主活動について

- ・保育園や幼稚園にヒアリングを実施したいと考えている。参加者は荒井氏、野牧氏、佐藤氏、大

倉氏の予定である。

- ・散歩道の作成を実施したいと思っている。コースを作るにあたり、おすすめスポットを参加者からメールまたは郵送で募集したい。
- ・散歩道の作成に当たって、みなみ野全域が入る地図を市から提供してもらえないか。
参考として、市が作成している散歩道の冊子を提供することは可能である。(未来デザイン室)
- ・みなみ野のまちをどうデザインしていくか検討するチームについても編成をしていきたい。

7 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

1) 高齢者あんしん相談センター片倉主催のイベントの開催

- ・高齢者あんしん相談センター片倉とみなみ野循環器病院のリハビリ専門職の方と共同でイベントを実施する。公園を活用した運動で健康づくりを行うことが目的である。日程は11月7日(月)と11月11日(金)で、場所は兵衛下平公園、事前参加申し込みや参加費は不要である。本イベント終了後も、公園を使った健康維持のコツをリハビリ専門職の方から教わる機会を作り、公園で子どもたちと高齢者が交流する場になればよいと思う。
- ・散歩道づくりは、ウォーキングという面で介護予防に効果的であり、散歩道の地図があると外に出てみようという気になると思う。足腰が丈夫な方ばかりではないので、コース上にベンチがあると、自分のペースで歩いてよいと思う。
- ・坂道が多いと高齢者にとって駅に向かうのが大変である。東京工科大学のバスが活用できることで地域を移動しやすくなり、多世代の交流が深まるのではないかと思う。

2) 東京工科大学の概要

- ・東京工科大学八王子キャンパスには、片柳研究所、F00SFUU という学生の福利厚生施設がある。地域に愛される大学でなければならないと思っており、今後キャンパス内のガーデニングがきれいなので、散歩コースに利用してもらえたらよいと思う。また、大学施設の一般開放については、今後理事会で報告する。(学務部学務課)

3) 地域づくり推進会議のモデル地区のフォーラム開催

- ・地域づくり推進会議のモデル地区である川口中学校区及び長房中学校区では、策定した計画に基づいた取り組みが進んでいる。取組内容の紹介や意見交換を行うフォーラムの開催を企画しており、日程は11/26(土)で、会場は川口市民センターで行うのでぜひご参加いただきたい。(未来デザイン室)

8 閉会

次回の推進会議の日程等の確認を行った。

第5回：令和5年(2022年)1月28日(土)9:30~12:00 みなみ野小学校2階 家庭科室

第3回会議の議事概要(案)の修正があれば、10/28(金)までに未来デザイン室へ申し出てほしいことも伝えた。

以上

アクションプランアイデアシート

将来ビジョン<第3回推進会議 仮置き案>

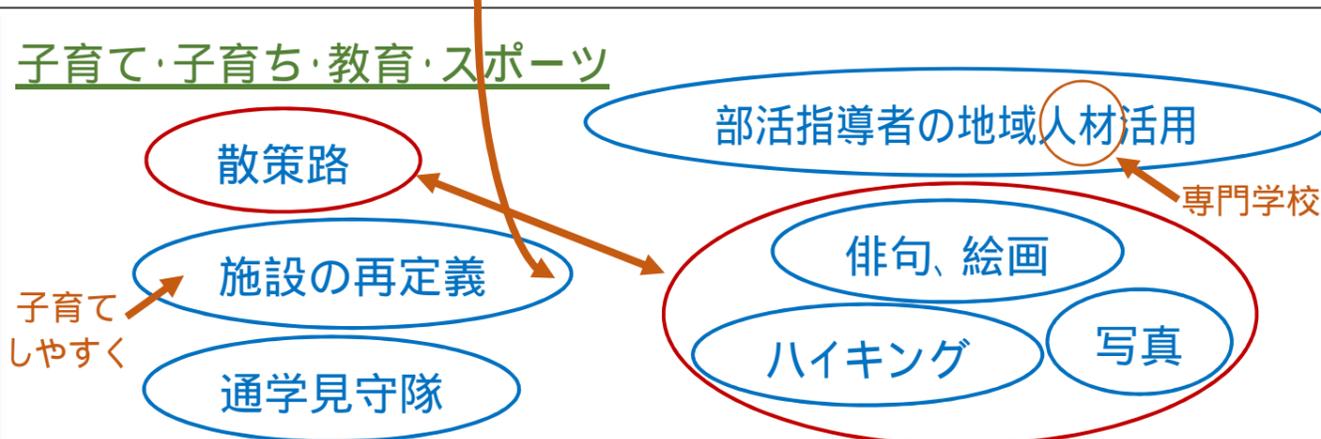
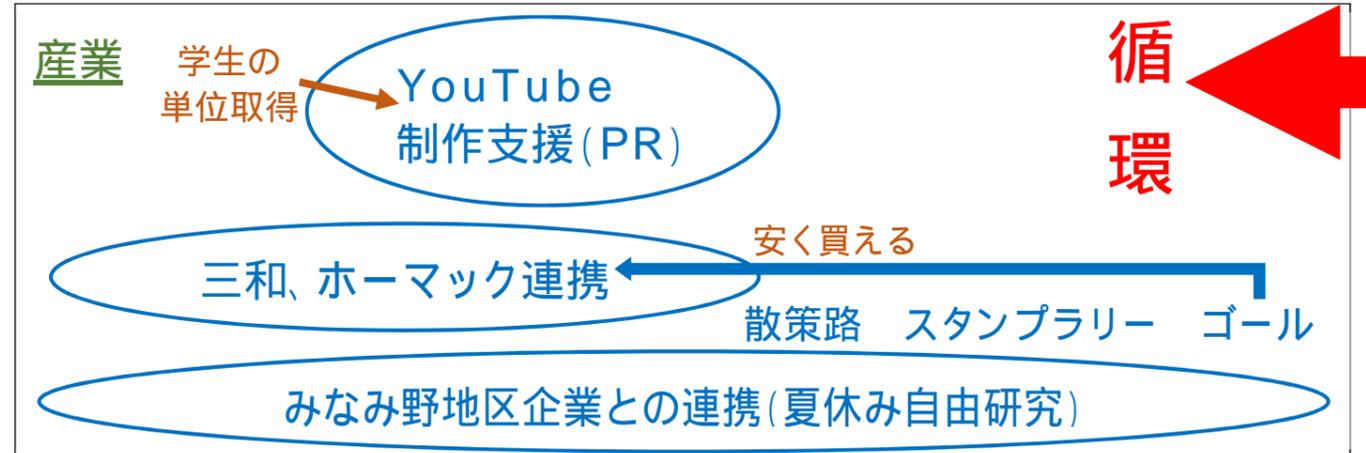
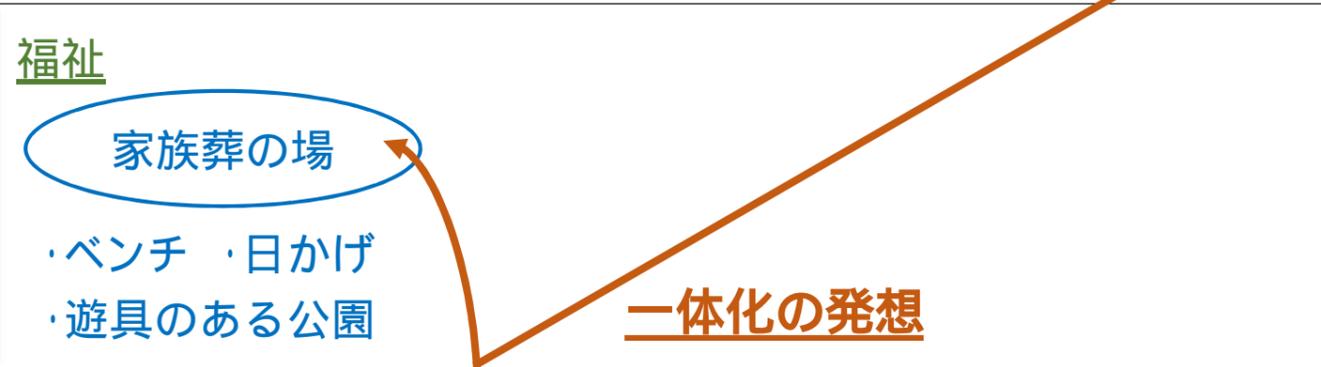
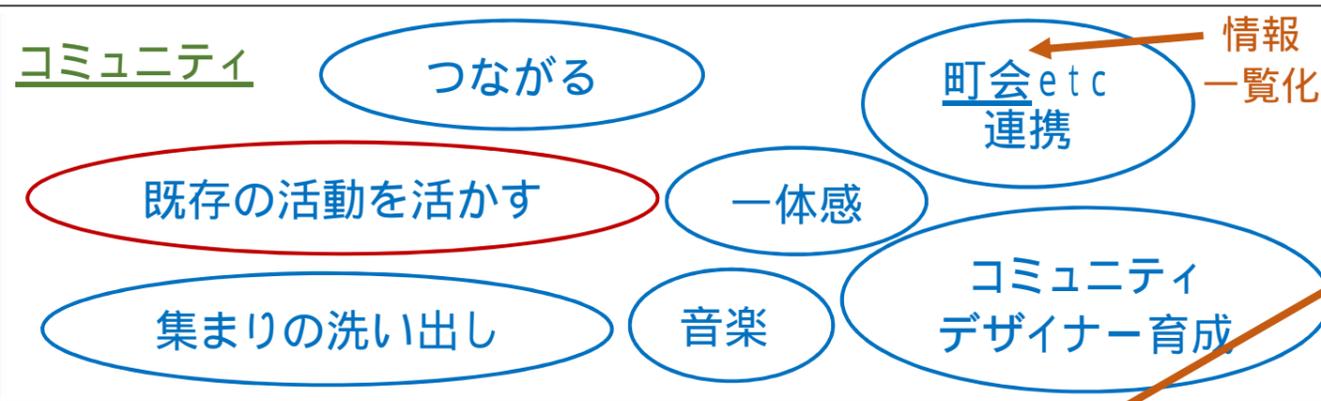
集まって、つながって風の生まれるまち

～人や自然が循環する八王子みなみ野～



スクールバスに地元情報
(ネコバスみなみ野バス)

アクションプランのアイデア：将来ビジョンを実現するための取組をイメージしてみる



循環